

解説

肉畜の生産と販売

渡辺明喜

国民生活水準の向上

最近畜産が飛躍的に伸びてきたのは、畜産物の需要の増大が大きく影響しております。国民の生活水準の向上に伴い、とくに食生活においては米麦などの主食の伸びは極度に停滞しているが、これに引きかえ、従来高級食品とされていた畜産物とか、果物、野菜などの需要が急激に増えており、その消費の形というものが大きく変わりつつあります。

畜産物の中でも、食肉については、最近の傾向として消費者の嗜好が蛋白質源として、魚から漸次肉に変わってきているということで、今後食肉の需要テンポは牛乳、卵同様非常に高い増加を示すものと予想されます。現実に国内生産だけでは不足で、毎年相当量の肉を外国から輸入しています。したがって最近では国はもちろん各県において肉畜振興ということを畜産の重点の一つとして力を入れているわけです。

肉牛肉豚の振興計画

さて肉畜の生産ですが、もちろん食肉の供給という点では種々の家畜があるがなんとしても牛と豚がその主体をなすものです。まず肉牛ですが、岡山県は全国的な産地であり、年間2万頭の肉牛を生産しております。そのうち県内で1万3千頭、阪神地方へ約6千頭を移出しております。食肉の需要が増加してくると同時に肉牛の肥育ということが年々伸びておりますが、それでも2万頭の肉牛のうち、ほんとうに完全に肥育されたものは、約半数の1万頭で、今後更に肥育の振興をはかる必要があります。そうして畜産振興計画によると昭和5年には4万頭の肉牛生産を目標にいろいろと増産対策をたてて行くことになっています。

次に豚については、岡山県のみでなく中国地方全体が非常におくれていたが、最近の豚肉需要の激増に対応して大変伸びてきました。殊に一昨昨年、スウェーデンから肉用タイプのランドレース豚を輸入

してからは県内の養豚も急に盛んになり、現在では飼養頭数も3万頭をこえており、ここ3年ほどの間に約2倍以上も増えてきました。一昨年の肉豚の生産は5万2千頭、そのうち県内で3万2千頭が消費され、阪神へ2万頭が移出されており、一躍肉豚の生産県になったわけです。なお今後の需要の増加にそなえて45年には約19万頭の肉豚生産を目標に養豚振興をはかることにしております。

肉畜の流通機構改善

さて次にこれら肉牛、肉豚の出荷即ち販売であります。農産物の中で、この肉畜なり食肉の取引が一番おこなわれていますことは、皆さんすでに御指摘のとおりであります。肉畜を生産することにより、農家収入を増やしてゆくためには自給飼料の増産を行って多頭飼育をしたり、さらには、肥育技術の研究をして経営の合理化につとめることはもちろんですが、肉畜が生産者の手をはなれてから消費者の食卓にのぼるまでのいわゆる流通機構の改善がさらに重要なことです。

この流通機構をあらためて、肉畜生産農家の所得をふやし、もって肉畜の振興をはかるために一昨年8月岡山市に全国で初めての県営の食肉市場が開説されたことは皆さん御承知のとおりです。この県営食肉市場は農家から出荷された肉牛、肉豚を枝肉にして、これを公開のセリ取引を行うわけであり、生産者から消費者までの中間経費が少なくなり、したがって畜産農家の現金収入が増える一方、新鮮な食肉が適正な価格で取引されることによって、ますます食肉の消費を伸ばそうというねらいもあるわけです。

この県営食肉市場を健全に運営するため、岡山県食肉荷受KKが設立されておりますが、これには食肉業界や家畜商の方々とともに生産者の代表である総合畜連なり経済連が参加しており、常に公正な取引を行う仕組みになっています。

系統機関を通じて共同出荷を

しかし折角こうした大きな目的で造られたこの施設も、現在充分活用されているとはいえません。一昨年8月から昨年9月末までの14ヶ月間の成績からみても、牛で4千頭、豚で1万頭が枝肉としてこの市場で取引されておりますが、県内の肉畜生産の総頭数に比べると、まだまだ不十分であります。中でもとりわけ農協などの生産者団体による共同出荷が特に豚において低調であるのは残念なことです。

出来た肉牛なり肉豚の販売をうまくやるかどうかで皆さん方農家の経営が(+)になるか、(-)になるかに極めて大きな影響を与えることになるわけです。従来よく行われていた庭先取引は肉畜販売の一番まずいやり方ですから、これを一日も早くやめていただいて、農協なり畜連などの皆さん方の系統機関を通じて、県営の食肉市場に共同出荷して公正明瞭な取引によって、有利な販売を特にお願いいたしたいと思います。